

キーワード

都市居住、都市組織、外部空間、まちづくり、コミュニティ

urban housing, urban tissue, exterior space, machi-dukuri, community

研究内容

[1] 街区居住と自律的居住環境形成

・プノンペン（カンボジア）の都市住居であるショップハウスでは、多様な増改築・空間更新手法が見られる。カンボジア独自の集合住宅の計画のためには、そうした多様な空間更新手法を許容するものでなければならない。

・空間更新手法として、①積層、②内部床の設置、③水回りの増築、④戸外空間の占有、⑤空間の囲い込み、⑥階段室の封鎖、⑦階段の設置、⑧壁の除去の8つが挙げられる。

・空間更新の要因は①居住空間の確保、②独立性の確保、③アクセス方法の変化の3つである。

・増改築を許容するようなコアハウジングシステムや垂直・水平方向への建て増しを可能にする構法システムを兼ね備え、オープンエンドな住みこなしを許容する計画を実施することが重要である。

・街路で行われる行為には、①滞在、②販売、③作業、④演出、⑤生活、⑥駐車 of 6種類ある。

・建物と外部空間との関係からみた空間利用の型としては、①拡張型、②完結型、③独立型、④移動型の4つが挙げられる。

・外部空間利用とショップハウス1階部分の相関関係を分析すると、飲食業・工場の場合は、歩道では拡張型の空間利用の割合が高く、それぞれ滞在空間・作業空間として歩道が機能する。小売業・サービス業では、販売・演出のための拡張にあわせて、生活物品のあふれだしも多い。

・路地入口近傍では、独立型・移動型の店舗の発生する割合が、他の場所の歩道に比べて高い。



[2] 市場の空間形成手法

・プノンペンで最も古くからある市場であるプサー・チャーにみる市場の空間形成手法は①生活と商売との共存、②小規模空間を核としたフレキシブルな構成、③セルフビルドによる個別性・多様性の実現、④物品配置による場の形成、⑤大規模施設に依存せず、小規模空間の集積によって施設をつくるの5点である。

・一方で、近年建設されたショッピングセンターの特質・問題点は、①環境負荷が大きい、②規範性(⇔冗長性)、③排他的、客を選ぶ、中間層対象、④地域でお金が循環しない、⑤高コスト体質、⑥均質な



空間、⑦車との親和性が挙げられる。

[3] スクウォッターエリアの空間構成

・プノンペン（カンボジア）最大のスクウォッターエリアであるボレイケラ地区を対象に、衛生・安全の面から劣悪な居住環境と位置づけられるスクウォッターエリアの空間構成の特質を明らかにした。

・①小規模性 ヒューマンスケール、②未完のプロセス リダンダンシー 冗長性、③身近な環境形成、④個別性の許容、⑤有機的なかたち、⑥公私領域のあいまいさ、⑦住むことと建てることの合一、⑧ブリコラージュとしての建築といった特徴がある。

最近の業績

[1] 脇田祥尚『スラムの計画学』めこん2013

[2] 脇田祥尚、八尾健一「不法占拠地区の居住空間構成ーボレイケラ地区（カンボジア・プノンペン）を事例としてー」（日本建築学会計画系論文集 Vol.76 No.659 pp.1-8 2011.01）

[3] 脇田祥尚、前田幸大「水上集落における住居・集落の空間構成ーアンロン・タ・ウー村（カンボジア・トンレサップ湖）を事例にしてー」（日本建築学会計画系論文集 Vol.75 No.655 pp.2107-2114 2010.9）

[4] Yoshihisa WAKITA, Hiede SHIRAISHI: Spatial Recomposition of Shophouses in Phnom Penh, Cambodia, JAABE, 2010(submitted)

[5] 脇田祥尚『みんなの都市計画』理工図書2009

[6] 科学研究費補助金基盤研究(B) 研究代表者「スラムの計画学構築のための計画的な研究」平成25年～27年年度(120万円)

[7] 科学研究費補助金基盤研究(B) 研究代表者「カンボジアにおける漸進的開発のための建築・都市計画手法」平成20～23年年度(1200万円)